

地区大会を顧みて・1

全員参加で意識の高揚に

第350地区 1974年9月7～8日



釧路北 小笠原 進

少々気負いすぎという批判もあったが、参加会員全員によりゼネラルシンポジュームの形式で、(1)ロータリーのもつ理念をもう一度見直そう。(2)ロータリアンとしての企業倫理について。以上二つをテーマとして討論を通してロータリーの質的向上を念願とした次第であります。

事前にわれわれの考え方について、充分と思われるPRをしたつもりであったが、未だ不足であったこと、さらに討議の時間的制約もあり、意図したものより成果として若干の不満は残り、短時間かつ全体討議の難しさを改めて考えさせられた。

しかし大会後各クラブの批判は本年度ターゲット RENEW……とマッチしてロータリー意識の高揚に大きな刺激になったとのことで満足すべきものと考えております。

次に「大会運営はロータリアン一人一人の手で」をモットーとして、近時大会においてしばしば見られるプロによる企画運営を避けました。

結果はホスト、コホスト全員の大会開催意識を昂め、大会参加ロータリアンに対して心からの暖い友情の広がりをもたらしたと確信いたし、さらにエクスカージョンにおいて、分区内各クラブが全員その特色ある歓迎接待に努められ、参加者に多大の感銘をあたえ真の友好の場を作っていたいただき、本大会の望外の収穫であ

昨年8月号の「地区大会告知板」で、各地区大会委員長より、大会のテーマ、特色を聞きましたが、今月はその内の昨秋行なわれた地区大会の大会委員長に「(1)大会の意図に照し、どのような成果をあげたか。(2)今後の地区大会に参考になる提案」につき回答を頂きました。

簡素化、内容の充実、全員参加など、種々の成果をあげているようです。今後の課題としては、家族の参加、第2日目の出席率の向上などが必要のようです。なお「ロータリーの友ニュース」4月号(各クラブ6部宛送付)ではバスターガバナー29君の地区大会への希望・意見が載っております。あわせてご覧下さい。



り感謝に堪えません。

終りに各位の暖かい友情に重ねて感謝しお礼申し上げます。(北海道)

簡素の中に充実した大会

第351地区 1974年10月5～6日



苫小牧 佐藤 玄一

“簡素の中にロータリーをエンジョイする大会”これが大会のテーマでした。大会を終って、簡素の中に充実した大会であったことを嬉しく思います。

とくに、“北国の森林、その生いたちといとなみ”“そろばんと論語”と題した高橋延清、塚本義隆両氏の記念講演は会員にふかい感銘を与えました。

R I会長代理、P. サースフィールド氏のご臨席を得て、親しくそのご声貌に接することができたことも、この大会の意義を深めました。

しかし、それぞれのご都合があったことと思われませんが、登録の変更や回答の遅延のために、参加者の数の掌握に手間どったこと、第2日目の午後から急に参加者の数が減ってしまったことは残念でした。

遠方からの参加者の都合を考慮して、大会第2日目はむしろ正午で終るように配慮すべきかも知れません。

全般的に見て、この大会を通じておおいにロータリーの精神が振るい起こされ友愛のかけ橋がおおきく広がったことは、おおきな喜びです。

森松ガバナーのご指導を感謝申し上げます。(北海道)

1年の献身的な努力で成功

第353地区 1974年10月12～13日



福島 下田 与吉

地区大会の魅力は、会員と家族が国の内外を問わず一堂に集る喜びであります。集り会するところに前進があり、親睦があると思います。大会の開催に当っては時期、会場、食事、記念講演、エクスカージョンなどに周到な配慮が要求されるのは当然であり、ホスト、コホストクラブの1年に及ぶ献身的な努力は、以上の諸点について、ほぼ成功したと信じております。

私は、大会におけるR I会長代理のメッセージと、R Iの現況報告に深い関心を持つのでありますが、それは後輩のために、永く残る貴重な記録だからであります。

なお、宿舎のことですが、福島は2回の地区大会を受け持った経験から、宿泊を希望する会員とあっせん業者が直接とり決めた方がよいと思う。勿論相談にあずかる労を措しむものではありません。

有意義な二日間の朝食会

第354地区 1974年10月9～10日



青森東 名畑 礼造

① 第354地区大会は小山内ガバナーの意志により第1日の早朝、分区代理、地区委員の朝食会、第2日の早朝には入会2年未満の会員とガバナーとの朝食会が行なわれ、特に2年未満の会員

との朝食会は有意義であった。

- ② 大会のアトラクションとして宝塚歌劇を公演し、特に夜の部に恵まれない交通遺児や施設にいる子供達、施設勤務者を1,500名招待し、非常に感謝された。
- ③ 大会参加者全員による懇親会は会場の都合でできないため、希望者による夕食会をもったが参加者350名によってこじんまりとまとまった懇親会ができ、参加者に非常に喜ばれた。
- ④ 大会第2日目の神守パストガバナー 齊木パストガバナーの二人によるパネルディスカッションも活発な意見が出て成功であった。
- ⑤ 大会のハイライト、元東大学長・茅誠司先生の「新しい地域社会を求めて」という記念講演は特に感銘深いお話で参加者より喜ばれた。  
(武田・大会委員長が入院し参加できませんでしたので、大会幹事が代って報告致します。)

### 質のよい目玉商品をもて

第355地区 1974年11月16～17日



日立 渡辺 昇

田中ガバナーが司会されたシンポジウム「ロータリーをどう考えるか? その本質について」を大会の一つの目玉とした。

手続要覧その他で教えられるロータリー知識は部門別協議会の問題とし、このシンポジウムでは、テーマの文言それ自体からも推察されるように、ロータリーのイロハでありかつ基本となる哲学を私共なりに改めて反省させ、とかくマンネ

リ化しがちな自らへの問い直しを求められたものであり、同時にロビンス会長の「ロータリー精神を Renew せよ」との呼びかけにどう応えていくべきかをせまられた厳しい意図がうかがわれた。これによって私共の大会の姿勢といったものをご推察いただけるものと思う。

シンポジウムの内容についての評価は必らずしも一様ではなかったと思うが、私としては感銘深く拝聴し、この大会の大きな成果であったと考えている。

大会を成功させる要素の一つは何といってもその内容であり、質の良い目玉商品をもつことではないかと思う。(茨城県)

### 小都市で開催の意義

第356地区 1974年9月11～12日



中条 八幡 八郎

第356地区・地区大会は、新潟県中条クラブが開催地となりましたが、勿論当クラブから馬場ガバナーが選出され、その本大会の責務を果した訳ですが、未だかつて新潟県においては、新潟クラブ以外の地区大会開催地クラブは、なかった訳です。

中条クラブは創立13年目になりますが、まだ日浅いクラブであり、会員39名であります。

本大会をお引受致すことに非常に心配の連続でした。

年々地区大会が華麗化の傾向が見られ、その中で人口2万8千の小さな田舎の小都市(町)で開催されたことは、RI会長代理松本兼二郎氏ご臨席の際「私

は数々の地区大会に臨んだが、こんな小さな町でのクラブが立派にそして流れを変えてメンバー全員で、家族と共に全力を尽した大会は、本当に私は今回初めて見る体験でした。ご苦労ご苦心が大きくにじみ出ている大会であった」と、高く評価して下さいました。

緑と大自然に囲まれた唯一の限られた会場で大会二日間全部のプログラムが、皆様方のご協力によって有意義に成功を納めた訳です。

故に小さなクラブでも簡素にして親睦を深め、勇気をもって思いやりの心で全力を尽した結果であろうと思います。

最後に同一主要都市で毎年年次大会を開催すべきでないことを、お願い致します。(新潟県)

### パーフェクトを目指し 不断の努力を

第357地区 1974年11月16～17日



浦和北 寿原 茂夫

虚栄虚飾を排し、会員のための、会員による真心年次大会を目指して、スタートした本大会は地区内会員総数の86.4%に達する登録申込みを頂き、流れを変えようと試みたホストクラブの意図が、充分にご理解頂いた結果と感謝致しております。これも分区代理各位の全面的なご協力と、ホスト、準ホストクラブ会員により地区内全クラブを訪問し、本大会の特色を説明し、全員参加の要請行脚が原動力になったことと存じます。

全員参加のメイン・イベントを大会二日目の一日とした関係上、非常に過密な

プログラムになりましたが、RIのプログラム通り敢行した誠実さと、会員による分区対抗演芸大会、友愛コーナーの構想に、RI会長代理金永韶先生より賞讃のご通信に接し、ホストクラブ一同感激致しております。

しかし結果として登録申込数と実出席者数、出席会員数と閉会時迄の在席会員数を等しくすることが、今後の年次大会ホストクラブとしての興味ある課題であって、一層の工夫と努力を期待して止みません。(埼玉県)

### ガバナー主催の方針を実行

第358地区 1974年11月22～23日



東京江北 池田 和夫

(1) 年次大会はガバナーが主催する方針を名実共に実行致しました。

また新しいプログラムの企画として、新会員夫妻を招いての朝食会、財界4巨頭による「企業の社会的使命」に対する考察、職業別協議会、分区代理による各分区フォーラムの報告、会報コンテスト、スライドによる物故会員追悼等々が盛り込まれ、これ等の企画が何れも大好評を受けたと考えております。

### 全員参加のシンポジウム

第360地区 1974年10月12～13日



飯田 山下 順蔵

大会の意図

立地条件の不備を乗り越えて「温かい友

情、奉仕の心」をスローガンに、地方色を打出して大会を温かい友情で包み、ロータリーの同志的意識を高揚することに基調を置いて、ホスト（飯田）、コホスト（飯田南、駒ヶ根）の会員と夫人300人が全員参加のチームを編成し、年余に亘って大会の準備、運営に奉仕活動を展開した。

#### 大会の成果

自画自讃の域を出ないが、成果の要因をなしたと考えられる事項を列挙してご批判に供したい。

1. 部門別協議会を全員参加のシンポジウムに代えた。
2. 特別講演の講師は、地区内会員に求めた。
3. 余興は地方色豊かな郷土芸能で編成した。
4. 友愛コーナー、土産品コーナー、観光プラン、懇親パーティ等には特に細心の配慮と努力をした。

#### 今後の大会への提言

1. 大会は、年度後半（3～4月）に開催する。
2. 会場は収容能力に合わせて調整する。
3. 経費の適正基準の設定。 (長野県)

#### 簡素にして友情を深める

第362地区 1974年10月26～27日



沼津 川井 盛雄

(1) 簡素にして、友情を深める大会を目標に努力しました。

イ. すべて予算内で、時節柄、華美に走らないように注意し、登録料と分担金

で一切を賄いました。ホストクラブは会議費程度。

ロ. 大会のあり方をもっと簡素にしたいとの意見もありましたが、示された予算で出来るだけ参加者に満足ゆくようにと、あれこれ手直しされ、結局、従来の大会の小型形式となってしまいました。

#### (2) 今後への提案

イ. もっと楽しい大会に、第2日目の出席の悪いのは楽しくないからではないでしょうか。

ロ. 立派な会場、立派な装飾は不必要、借上会場をそのまま使用で充分です。

ハ. 記念品、晩餐会も改めたい。記念品は大会参加章程度。晩餐会は夕食を渡し解散するか、別会場で希望晩餐会とする。学校また公共施設で晩餐会を開くことは益々困難でしょう。 (静岡県)

#### 全力を尽した喜び

第365地区 1974年10月5～6日



武生 三田村 俊一

式典的で祭典的で、教育啓蒙の場でもなければならぬ年次大会ですから、この要素をふまえて、歌あり夢あり楽しさ一杯の総り多い、ユニークな大会をと念願致しましたが、何分未曾有の狂乱物価の渦中での大会準備のため、その収支のバランスも五里霧中で全く予測できず、従って運営上も何かと手落ちがあり、ご迷惑をかけたことと存じます。

しかしお陰様で県内各クラブ会員の陰陽にわたる限りないご協力と、参加会員

各位の深いご理解とにより、終始地方色のある大会雰囲気、恙なく終了することができました。

賜りましたご好意と友情とに対し衷心より厚くお礼申し上げますと同時に、溢れる感謝の念で一杯でございます。

武生クラブが本大会で力及ばずという面が多々あるにしましても、及ばず乍らも全力を尽したということはお互に慰めであり、喜びであり、そして労りでなかろうかと存じます。

事の成否は勿論大切です。けれどもその成否を越えてなお大事なことは、各々が力を尽すという自らの心この気持は何ものにも換えられない尊いものであり、これが本大会の一番大きな最も貴重な体験であったと信じます。 (福井県)

#### 家族の一層の参加を

第367・368地区 1974年10月19～20日



神戸西 鶴崎範太郎

「ロータリーの精神を振るい起すことにより生活の本質を改善しよう」が大会のテーマとされ、また元々同一地区であった両区の分割後最初の連合年次大会であり、一層親睦と友好の実を挙げるべく期待されました。

田中国夫博士（西宮甲子園RC会員）の記念講演「今日の世相、明日の世相」は大会テーマとよくマッチし、熱演と時勢を反映した会員の関心が満堂に融け合いました。

全体会議では大会テーマの意図を活かして、環境問題、青少年問題等がとりあげられ、達識で経験豊富なロータリアン

と斯界の権威者がパネラーとなり、またロータリークラブは今世紀最後の四半世紀に如何に処すべきかの討議がガバナーを中心に行なわれたが、第2日目にも出席者があまり減らなかつたことからしても、充実した内容と会員の熱意が伺われ大会は非常な評判を頂戴しました。

アトラクション、懇親会に両地区連合の実が挙がったことは申すまでもありませんが、今後の地区大会には大会の意義昂揚のためにも、ご家族の参加が一層多からんことを望みます。 (兵庫県)

#### 経費節減を主眼に実行

第370・373地区 1974年11月23～24日



熊本東 木村 清孝

(1) ご家族向けに特別のプログラムは編成せず、大会プログラムに組み込んだ特別講演を作家の平岩弓枝氏に依頼したが、大会参加者に多大の感銘を与え、ご家族に対しても所期の目的を果たすことができた。

(2) 経費節減を主眼として実行した。

ホスト、コ・ホストクラブの特別負担金、商社よりの協賛金等の一切を廃して、登録料1人当り4,000円と大会分担金1人当り1,500円および地区資金補助のみにて運営したが、結果は若干の黒字を残して決算することができた。

しかし大会分担金の送金方法、時期等については、地区協議会とは別に大会ホストクラブ会計と各クラブ幹事が事前に打ち合わせを行なうことが必要であろう。